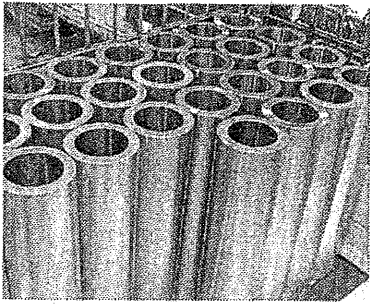


大和合金 24年の航空機用銅合金販売量 1割増、過去最高目指す

銅合金の鑄造品・鍛造品メーカーの大和合金（本社・東京都板橋区、社長・萩野源次郎氏）は2024年に、航空機関連の銅合金素材の販売数量を前年比で1割伸ばし過去最高量を目指す。欧米でビジネスを拡大。またアジアで新規顧客を開拓した効果にも期待している。加えて日本国内で拡販にさらに力を入れる考えだ。

アルミ青銅や高力黄銅製品。着陸時に使う銅製のブッシュと呼ばれるランディングギアの軸受向けに国際的に供給する筒状の鍛造品・押出品が航空機関連の主力となっている。



航空機用の銅合金素材

23年の航空機関連の銅合金素材販売量については、コロナ禍で落ち込んでいた旅客が回復していることなどを受けて需要が戻ってきたことから、前年比35%増と大幅に伸びる見込みとなっている。24年は米国・欧州で新造機向けなどの販売を拡大する考え。アジアではベトナムやインドネシアで新規顧客を開拓しており新造機・整備用双方の増加に期待している。また日本国内向けでは、整備用のビジネスをさらに強化したい考えだ。

同社では航空機用銅

合金素材を戦略分野として位置付けており、販売拡大を目指している。

る。そのために熱処理炉を増設するなど、供給能力の強化にも取り組んでいる。萩野社長は「24年は19年に記録した過去最高値を更新していければ」と話している。